

平成27年度（2015年度） 「地質調査技士登録更新講習会」報告

技術委員会

平成27年度の東北地区の地質調査技士登録更新講習会は、平成27年11月17日（火）に「仙台国際センター」で開催されました。

登録更新は、平成25年度から①登録更新講習会により更新する方法と、②CPDの取得による更新の何れかを選択する方法となりました。今年度東北地区では、講習受講者230名（CPDによる更新者は11名）での講習会となりました。講習会受講者に対し、CPDによる更新者が年々増えており、今後も増えることが予想されます。

講習は、テキストの内容に併せて第I編から第IV編の4つの講義が実施されました。第I編の「地質調査業について」では、はじめに2013年度の地質調査業務の総額事業量がピーク時（1995年）の約4割に減少している厳しい現況が報告され、更には、「地質調査業務に関する入策・契約制度等」、「標準契約約款の制定」、「独占禁止法の運用強化」「公共工事品確法の成立・施行」など、業界を取り巻く環境が年々変化していることが再認識されました。また、昨今の災害多発やインフラ老朽化への対応にあたり、今後、「ジオ・アドバイザーとしての地質調査技術者」「安全で安心な社会づくりに地域に密着した基幹産業としての地質調査業」が益々重要となることも再認識されました。

第II編の「地質調査技術者について」では、地質調査技術者の資格制度・教育訓練システム・技術者倫理など、地質調査技術者としての「あるべき姿」「自己研鑽の必要性」を再認識しました。また、平成25年度から採用された「CPDを活用した更新制度」についても改めて紹介がありました。

第III編の「調査ボーリングの基本技術

と安全管理・現場管理のレビュー」では、ボーリング調査に関する基本技術（仮設、掘進技術、孔内試験等）・安全及び現場管理の目的・方法・留意点の再確認に加え、2013年に改訂された標準貫入試験や孔内水平載荷試験の学会基準変更点の説明もありました。

第IV編の「調査ボーリングの周辺技術動向」では、「調査ボーリングの記録と報告」「目的に応じたボーリング及びサンプリング方法」「ボーリングを伴わない主なサウンディング」「土壌汚染調査」「地質調査における物理探査と室内土質試験の役割」の内容で講義がなされ、地質調査技士に必須の周辺技術について説明がありました。

なお、本講習に用いた平成26・27年度用テキストは、最新の技術動向が反映されていることは勿論のこと、関連技術・施策・留意点がコラムとして記載された大変判りやすい資料となっていました。平成28年度の講習会も地質調査技士としての技術研鑽、技術伝承の場として、皆様にご利用頂けるよう、改めましてお願い申し上げます。

最後に、丸1日という長時間にわたる講習会が、多忙のなか受講者の皆様のご協力のおかげで無事に終えることができましたことに対し技術委員・事務局一同心より感謝申し上げます。



登録更新講習会の受講状況